

(メモにお使い下さい。)

# あいちモリコロ基金

## 終了記念フォーラム

### 10年間の振り返りとこれからを考える

「公益信託愛・地球博開催地域社会貢献活動基金（あいちモリコロ基金）」は、愛・地球博の剰余金を原資に2007年に創設されました。中部地方における市民の社会貢献活動を支援し、1603事業、10.8億円の助成が行なわれました。

基金は、2018年で終了し解散します。

2016年に休眠預金等活用制度が誕生し、市民活動の新たな時代が始まっています。

フォーラムでは、10年間の成果を評価し、これからの市民活動への支援方法を考えます。



2018年11月12日(月) 18:30~20:45

ウインクあいち・会議室 1002

■主催:公益信託愛・地球博開催地域社会貢献活動基金運営委員会

問合せ先:あいちモリコロ基金サポート組織(NPO法人ボランティアネイバーズ)

461-0005 名古屋市東区東桜 2-18-3 702

TEL 052-979-6446(担当:遠山) FAX 052-979-6448 Email office@morikorokikin.jp

URL <http://www.vns.or.jp/>

## タイムテーブル

18:30 開会・ご挨拶  
藤田 哲 あいちモリコロ基金運営委員会委員長

18:35 基調報告「基金の成果」  
後藤澄江 あいちモリコロ基金運営委員会副委員長



19:00 パネル討論  
「あいちモリコロ基金の評価とこれからの市民活動」  
□論点

- ・市民活動を評価する視点、仕方、要点
- ・市民活動への資金的支援の仕組み、仕方、留意点
- ・休眠預金等活用制度を契機にして進んでいる「社会的インパクト評価」への視点
- ・あいちモリコロ基金の評価。何を継承し何を改善するのか

### 【パネリスト】

青木孝弘氏（会津大学短期大学部准教授）  
名古屋大学法学部卒。日本NPO学会、日本公益学会会員。NPO助成金の成果調査や英・アイルランドのコミュニティファンド研究者。

加藤義人氏（株三菱UFJリサーチ&コンサルティング政策研究事業本部執行役員）  
専門分野は、「社会資本整備の経済効果」や「地域開発と資金調達」、「公共経営」をテーマとした調査・コンサルティング。

川合信嘉氏（一宮市職員）  
一宮市で15年にわたり市民活動を担当。市民税1%で市民活動を支援する制度の設計や運営、市民活動サポートセンター運営に携わった。

中尾さゆり氏（NPO法人ボランティアネイバーズ副理事長）  
あいちモリコロ基金相談コーナーを基金設立時から担当。助成金申請書や事業報告書作成をサポート。NPO会計税務専門家ネットワーク理事。

### 【コメンテーター】

雨森孝悦氏（日本福祉大学福祉経営学部教授）  
日本NPO学会理事、国際NGO・NPO学会、日本評価学会会員。研究テーマは、社会変革に果たす非営利組織の役割、非営利組織のセーフティネット機能など。

### 【コーディネーター】

小林宏之（あいちモリコロ基金運営委員）  
あいちモリコロ基金設立時から運営委員を務めた。株総合開発機構代表取締役、前（公財）中部圏社会経済研究所代表理事。

20:45 閉会

## あいちモリコロ基金の成果・概要

### ■あいちモリコロ基金の成り立ち

「あいちモリコロ基金（公益信託 愛・地球博開催地域社会貢献活動基金）」は、愛・地球博の理念と成果を継承し、市民の社会貢献活動を支援するために2007年8月30日に設立されました。基金の原資は愛・地球博の剰余金の一部約13億円で、毎年およそ1億円が助成されました。

### ■助成の種類

- 「初期活動」助成：1件30万円以内で年間100件程度
- 「展開期活動」助成：1件100万円以内で年間50件程度
- ＊「協働活動」助成：1件100万円以内で年間10件程度（平成23年度から展開期活動に包括）
- 「大規模活動」助成：1件500万円以内で年間8件程度

### ■選考基準

「愛・地球博理念の継承性」「必要性・公益性」「先駆性・先進性」「発展可能性」「実現可能性」「費用の妥当性」の6項目。

### ■応募数・採択件数・助成額

2007年10月の「初期活動募集」に始まり、2017年6月の「初期活動募集」まで実施された結果、応募件数3734件、採択件数1603件、助成総額約10億8千万円でした。

助成の種類	応募件数	採択件数	採択率	助成総額
初期活動	2108	1040	49.3%	30,314万円
展開期・協働活動	1284	482	37.5%	42,164万円
大規模活動	342	81	23.7%	35,846万円

### ■助成活動のテーマ（対象とした活動）

NPO法人の活動分野に準じて19分野でした。分野別・地域別に見た採択件数は下記の通りです。

- 分野別：環境保全298、子どもの健全育成288、保健医療福祉の増進276、まちづくりの推進203、社会教育の推進106、国際協力89、災害救援68、団体への助言・援助48、学術・文化・スポーツ45、人権平和42、職業能力33、地域安全26、農山漁村26、男女共同22、情報化社会10、科学技術10、経済活動9、観光4。
- 地域別：名古屋702、尾張・海部435、西三河225、東三河117、知多111、他県13。

### ■助成活動の成果

ボランティア等人の参加、成果物。＊ただし、実績報告書から数値が確認できる分を集計した。

【人の参加】事業に携わった人；21,560人、415団体／ボランティア；15,065人、1247団体／活動に参加した人1,050,992人、5,860団体／協力した人；13,486人、3,102人。

【物的な成果】施設の改善や建設；84,321件、環境の整備；428,257件、広報物の製作；2,947,357件、教材・テキスト製作；63,400、記録冊子；109,228、ホームページ制作；6,127件。

### ■助成団体へのアンケート結果「活動の成果」。（ ）内は回答数。

市民活動の力量拡大（330件）、市民参加の促進（283件）、多様に人のネットワークが出来た（222件）、新たな課題の取り組み開始222件）、社会や地域の課題解決の前進（182件）、地球規模の課題を自分の課題とした（81件）、持続可能な社会が進んだ（67件）。